

アデレードでの多文化保健福祉研修報告

井上里加子* 久保田恵* 阿部淳二** 二宮一枝*** 名越恵美*** 谷口敏代****
原野かおり****

要旨 「外国語の習得や専門分野に関連した施設見学や研修体験を通じて異文化への理解や多文化共存の重要性について学ぶとともに、修了後は自国での専門職教育における学びのモチベーションの向上につなげる。」ことを目的として、約1週間、南オーストラリア州(SA)にあるアデレードへ学生10名と引率大学教職員2名とで専門的かつ実践的な研修を実施した。そこで今回、本研修が国際交流として本学の学生に与えた影響と教育効果を明らかにし、今後の保健福祉研修への示唆を得ることを目的としてアンケート調査を行った。結果、現地で様々な触れ合いを通して言語は多様なコミュニケーションツールの一つであることに気づき、また文化の違いによる価値観の異なりを実感し異文化理解へとつながった。そして専門職としての理解を深めるきっかけを得、修了後のモチベーション向上を期待できる学生の反応であった。これらのことより、本研修は目的を達成するものであるといえる。

キーワード：保健福祉研修、国際交流、異文化理解、専門職教育、学生

はじめに

文部科学省による「日本人の海外留学者数」の調査によると2012年度統計では、海外の大学等に留学した日本人は、各国・地域で60,138人となり、最大であった2004年と比較すると、約27%の減少となっている¹⁾。このことから、現在のグローバル化の流れとは逆行した現象が見られ、国際化教育面での立ち遅れが原因していることが考えられるとの報告もある²⁾。

そこで、本学では「外国語の習得や専門分野に関連した施設見学や研修体験を通じて異文化への理解や多文化共存の重要性について学ぶとともに、修了後は自国での専門職教育における学びのモチベーションの向上につなげる。」ことを目的として、TAFE SA、高校 Norwood Morialta High School (Senior Campus)、小学校 Coromandel Valley Primary School で専門的かつ実践的な研修を実施した。本研修は、平成26年度の国際交流推進助成を受け、平成27年2月27日～3月9日(現地3月1

日～3月8日)に、南オーストラリア州(SA)にあるアデレードへ学生10名：栄養学科(2年生1名、3年生7名)、看護学科(1年生1名、4年生1名)と引率大学教職員2名とで訪問する機会を得た。今後の研修に役立てるために、より効果的で内容ある研修とするための調査を行ったので、本稿で報告する。

1. 研修の実施概要

TAFE SAでの語学研修と専門研修、および関連施設の高齢者福祉施設でのスタッフや利用者との交流、専門領域に関連のある市内マーケット、高齢者向け宅配弁当製造会社(ケイタリング会社)や在宅自立支援センター(補助器具展示場含む)の視察や、教育機関(小学校・高等学校)での授業実践を含む交流活動や施設見学を実施した。また、アデレード滞在中、学生は2人一組でホームステイを体験することにより、語学修得と異文化交流・異文化理解の機会とした。

* 岡山県立大学保健福祉学部栄養学科

** 岡山県立大学国際交流センター

*** 岡山県立大学保健福祉学部看護学科

**** 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科

〒719-1197岡山県総社市窪木

〒719-1197岡山県総社市窪木

〒719-1197岡山県総社市窪木

〒719-1197岡山県総社市窪木

2. 事前研修

研修参加者は、1月中旬からの事前研修に積極的に参加し、国際交流センターの英語村やスカイブ英語を引率教員と共に活用し、外国語学習の意欲の向上が見られた。また本プログラムでは、教育力向上事業（全学教育と専門教育の連携によるグローバル社会に対応できる食文化及び栄養学教育の推進）の一環として、交流活動における外国語での授業実践等を導入したことで、引率教員や現地担当者と連絡を取り、また英語村を活用して情報収集や事前準備を行うなど自主的な学びの意欲につながった。

3. 研修内容

【1日目】各自ホームステイ先の家族との交流を図った。

【2日目】TAFE SA での研修①

オリエンテーションののち、豪州における保健制度の実際、感染症予防対策、更に高齢者生活支援制度について学んだ。また、入院患者及び医療従事者双方に対しての職場の健康と安全対策についても学び、日本と比較し対応が進んでいる豪州の感染症対策の実際や体位の移動等の介護実習を行った。

【3日目】TAFE SA での研修②

午前中は豪州のフードガイドと課題の指示のもとマーケットを訪問し、グループで豪州の食文化について調査した。午後は高齢者福祉施設（The House Of St Hilarion）を訪問し、イタリア移民の認知症高齢者の入所施設の概要（高齢者福祉、多文化共生、地域住民のボランティア活動の実際）の説明を受け、視察するとともに入所者とちぎり絵や折り紙、紙風船などの活動を共にし交流を深めた。

【4日目】TAFE SA での研修③

午前中は高齢者向け宅配弁当製造会社（ケイタリング会社）や在宅自立支援センター（補助器具展示場含む）の視察をし、豪州福祉制度の中での給食サービスや在宅における介護や自立支援サービスの実際について学んだ。午後はTAFE SAにて専門英語や高等学校や小学校で実施する授業実践について模擬授業を行い、その英語表現に関する指導を受けた。

【5日目】高校 Norwood Morialta High School (Senior Campus) ³⁾ を訪問

学校の概要の説明を受けるとともに休憩時間の校内の視察や日本語教諭芳賀氏の多国籍からの留学生

と共に学ぶ豪州の教育制度や豪州での生活体験の講話から多文化共生の実態やグローバルに活躍することの可能性を理解した。また日本語クラスにおいては「はし」をテーマに日本文化の紹介をおこなう活動を実施し、生徒と交流を図った。午後は、豪州の食品加工工場の見学として Haigh's Chocolates の工場見学を行った。

【6日目】小学校 Coromandel Valley Primary School⁴⁾ を訪問

学校の概要の説明を受けるとともに、LunchTimeを共にすることで豪州の子供たちの食生活の実態に触れた。また現在日本ではまだまだ取り入れられていない国際バカロレア IB 教育プログラムや豪州での生活等について日本語教諭の山本氏から講話をうけ、更に全校集会での IB 活動に関する児童の成果報告発表を視察することで、日本の教育制度や教育方法と比較し多様な学び方の可能性に気付く機会となった。更に2つのクラスで日本語の授業時間にフードガイド⁵⁾に基づく食育の活動を実施し、児童と交流を図った。午後はカーリックヒル及び野生動物公園を訪問し、南オーストラリアの自然に触れる機会とした。

【7日目】各自ホームステイ先の家族と交流を図った。

4. 調査目的

アデレードでの多文化保健福祉研修が、国際交流として本学の学生に与えた影響と教育効果を明らかにし、今後の保健福祉研修への示唆を得ることを目的とする。

5. 調査方法

(1) 調査対象

2014年度研修参加者 延べ10名

(2) 調査内容

①アンケート調査：「参加しようと思った理由」「スタディツアーに参加してどのように感じたか」「スタディツアーにおいてどのような困難を感じたか」「参加しようとした当初の目的を達成できたと思うか」の4項目

②アンケート調査：各研修内容について。「高校での見学や生徒との交流（お箸ゲーム）」「小学校での見学や児童との交流（食育ゲーム等）」「TAFE SA での健康や栄養に関する専門英語の

勉強」「高齢者福祉施設での施設見学や入居者やスタッフとの交流」「専門学校での健康や栄養に関する専門技術の英語での勉強」「TAFE SAにおける3月4日午前中のプログラム」「マーケットやスーパー等の見学・散策」「TAFE SAにおける3月4日午後 英語入門プログラム」「アデレードでの自由行動」「ホームステイ」について各10項目を4点式で評価した。

③レポート：「専門分野の研修について」、「語学研修について」、「異文化交流・理解について」、「今回の経験を今後はどう生かしていくかについて」の4点。

(3) 調査時期

研修終了後、個別に調査用紙を配布し回収した。レポート課題は、約1カ月後に回収した。

(4) 倫理的配慮

アンケート調査については、配布時に任意であること、データとして処理し個人を特定しないことを口頭で説明した。またレポートについては、報告書としてまとめ公表することを目的としていること、研究で使用する際は個人を特定しないことを口頭で説明した（岡山県立大学倫理委員会受付番号：473）。

6. 結果および考察

参加後のレポート等からは、参加学生は本保健福祉研修プログラムにより、外国語の習得以外にも専門分野に関連した施設見学や実践活動を含む研修体験を通じて異文化への理解や異文化との共存について学ぶとともに、自身の専門領域の学びの振り返りの機会を得ていた。

また、今回の研修プログラムについて、カテゴリ別に各10項目について評価した。その結果、高校や小学校での交流活動は、「自分の語学力が活かされたと思う」という質問に対して、現状の語学力では活かされたとはあまり思えないという自己評価であったが、「この活動に参加することは自分にとって有意義だったと思う」、「この活動が自分の専門性に今後活かされると思う」、「この活動が社会人になる際に活かされると思う」、「この活動が自分の語学力向上に今後活かされると思う」、「この活動が今後の異文化理解や交流に活かされると思う」では、高い評価となっているためいずれも今後の専門分野や外国語のさらなる習得への意欲は高くなっており、

またこの活動に参加したことの意義を感じていることが推察される。

自由記述でも準備は大変だったが意義があったと記述している点からも評価できる。更に、現地で就労し活躍されている日本人の方（芳賀先生、山本先生）から直接話を聞く機会を得たことで、グローバルに活躍することへの興味・関心を強め、更に今後一層の多文化理解に努めようとする姿勢や自国での外国語の修得や専門職教育における学びのモチベーションの向上がうかがわれた。

以上のことから、研修企画当初の目的はおおむね達成できたと考える。

7. 現地受け入れ校の評価（先生方のメールより抜粋）

高校：学生は現地の高校生と準備してきたことをもとに交流活動をすることが出来ていた。ただ訪問するだけでなく、生徒と何かをし、より深い交流を通して、若者同士がお互いに異質性、同質性を肌で感じることは、共通認識を培う上でとても重要なことと考えられる。

小学校：本当の日本人とふれあい交流する機会は、当校の生徒にとってとても大きな生きた学習の場となる。改善の余地はあるが、初めての授業だった事や、英語のレベルを考慮すると、合格点と考えられる。今回の経験を次の参加者につないでいくことで、交流活動の改善につながると思われる。

8. おわりに

語学については、今回1週間という短い期間であったため、語学力の育成にはつながらなかったが、語学に対する考え方が変わった参加者も多くおり、コミュニケーションツールの一つとしての認識を新たに持つきっかけとなったようだ。また、異文化交流・理解については、オーストラリアの中でも原住民アボリジニーへの尊敬の念が広がっている事にも触れ、日本との違いにも触れ、多方面からの理解につながっていた。また、異文化に触れることで、自国の文化にも興味を抱くきっかけとなっていた。また、研修を通じて「今回の経験を今後どう生かしていくかについて」、各参加者の専門職（管理栄養士、栄養教諭、看護師等）における深い理解へとつながり、今後の学生生活へのモチベーションにも寄与していくことが期待される。このように、

今回の研修内容に関して、本来の目的を達成できる内容であったが、高齢者施設での実践活動は直接現地スタッフと打ち合わせができなかったため、十分な準備ができなかった。反面、高校や小学校での交流活動は事前に現地の担当者の芳賀先生や山本先生と打ち合わせができたことで、活動の準備も当日の実践もより有意義なものとなった。よって現地での実践活動には現地担当者との打ち合わせが不可欠であり、そのような受け入れ施設（今回の高校や小学校）の確保がこのような専門的かつ実践的な研修では非常に重要である。

謝辞

本研修を実施するにあたり、TAFE SA 関係者、Ms. Andrea Sarantaugus、芳賀浩先生、Norwood Morialta High School 関係者、Mr. Phil Greaves、

山本浩之先生、Coromavdel Valley Primary School 関係者をはじめ多くの関係機関、団体のお世話になりました。この場をかりて感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 文部科学省：「日本人の海外留学者数」及び「外国人留学生在籍状況調査」等について
- 2) 黒崎真由美：短期海外研修の教育的意義について、湘北紀要 33, 107-124, 2012
- 3) Norwood Morialta High School : <http://nmhs.sa.edu.au/>
- 4) Coromavdel Valley Primary School : <http://www.coromandps.sa.edu.au/>
- 5) Australian Dietary Guidelines and Australian Guide to Healthy Eating (revised in 2013)

研修風景

【香港市内視察】



【TAFEでの研修】



建物外観

オリエンテーション

保健福祉制度等（座学）

感染症対策の実技実習

介護実習

【マーケットでの研修】



建物外観

教材

視察風景

【高齢者福祉施設の訪問】



入所者との交流

【高齢者向け宅配弁当製造会社（ケイタリング会社）の視察】



建物外観

概要説明

視察用の服装

製造工程の見学

【在宅自立支援センター（補助器具展示場含む）の視察】

【チョコレート工場の視察】



概要説明

補助器具の展示

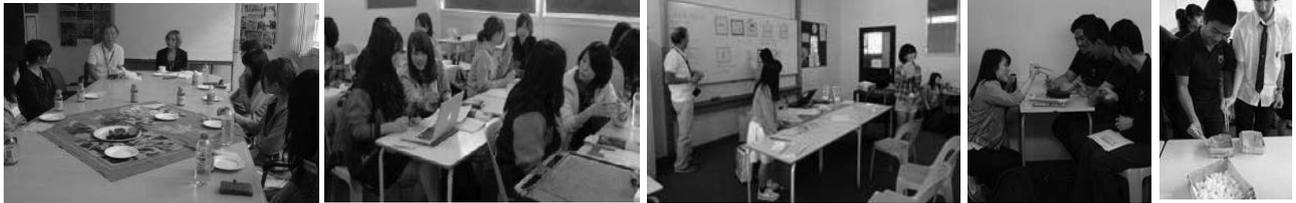
電話機

シャワー用品

HAIGH'S

VISITOR CENTRE

【ノーウッド・モリアルタ高校の訪問・学生との交流】



副校長先生・芳賀先生との懇談

日本語学習者との交流学习

授業実践

日本文化の紹介（お箸の使い方とマナー）

【コロマンデル・バレイ小学校の訪問・児童との交流】



校長先生及び山本先生と懇談

授業実践

食育ビンゴ

バランスの良い食品の選び方

交流（ハンカチおとしやアイス取りゲーム）

【カーリック・ヒル】

【クリーランド野生動植物公園とボタニック・ガーデン（植物園）】



建物外観

桃太郎像の前

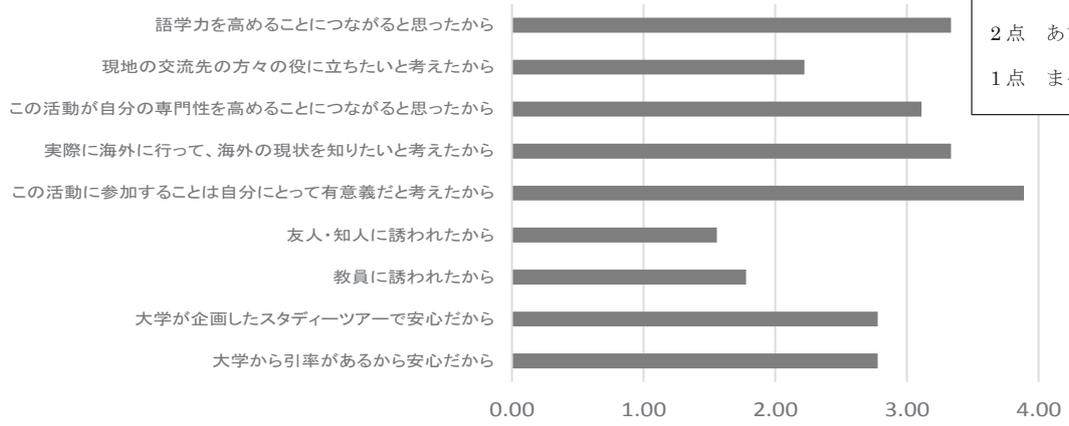
ワラビーと

コアラと

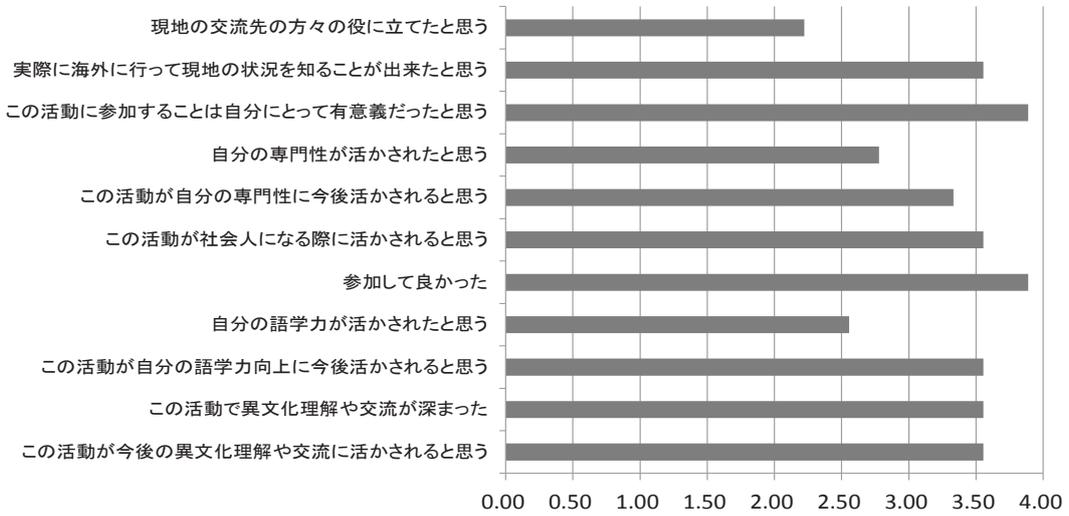
アンケート結果

参加しようと思った理由

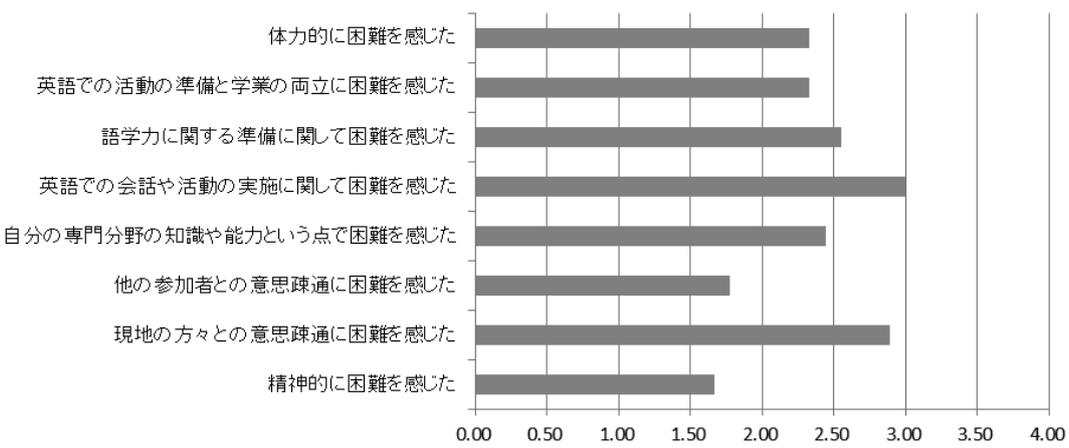
4点 とても当てはまる
 3点 まあまあ当てはまる
 2点 あまり当てはまらない
 1点 まったく当てはまらない



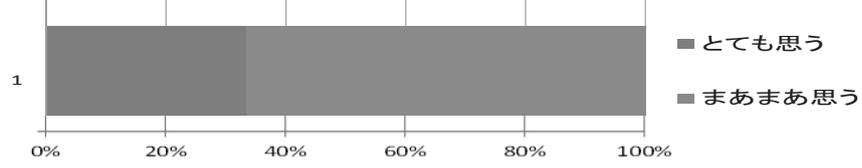
スタディーツアーに参加してどのように感じたか



スタディーツアーにおいてどのような困難を感じたか

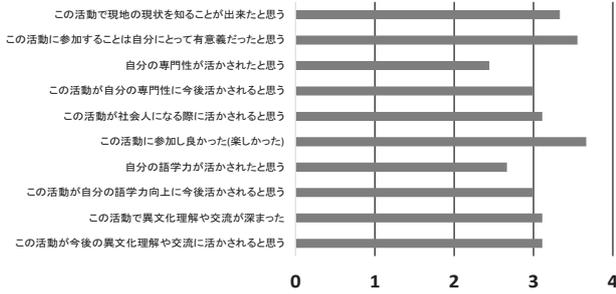


参加しようとした当初の目的を達成できたと思うか

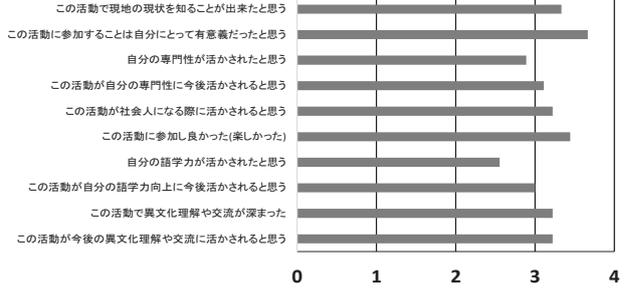


個別のプログラムの評価1 参加者の自己評価

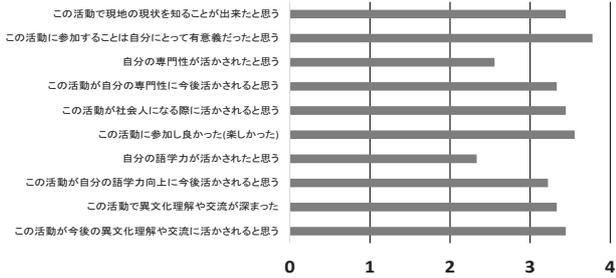
高校での見学や生徒との交流(お箸ゲーム)



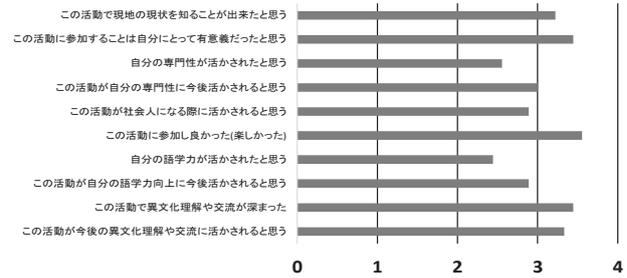
小学校での見学や児童との交流(食育ゲーム等)



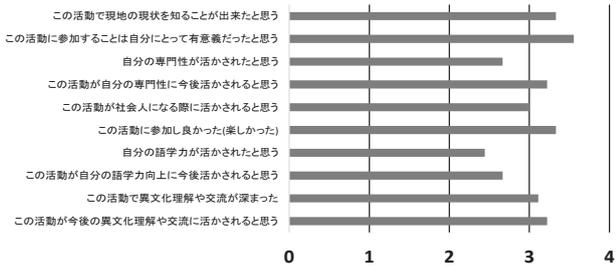
Tafe SA での健康や栄養に関する専門英語の勉強



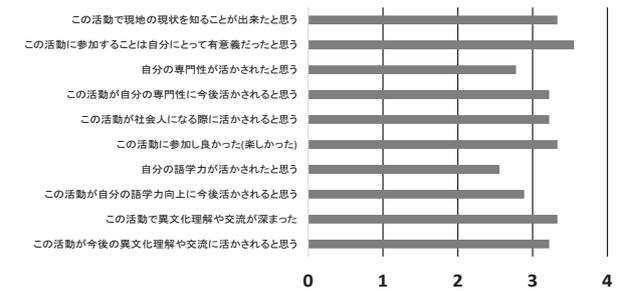
高齢者福祉施設での施設見学や入居者やスタッフとの交流



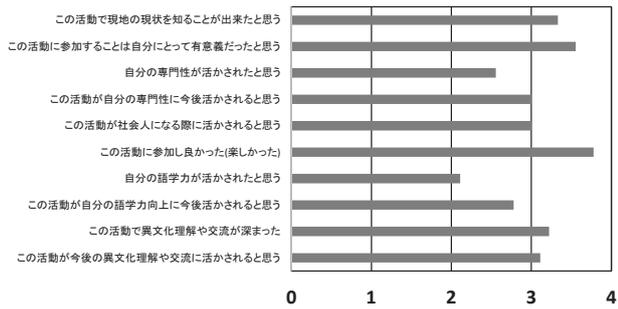
専門学校での健康や栄養に関する専門技術の英語での勉強



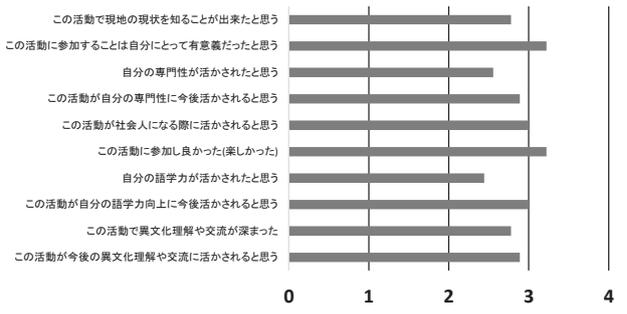
TAFE SA における3月4日午前中のプログラム



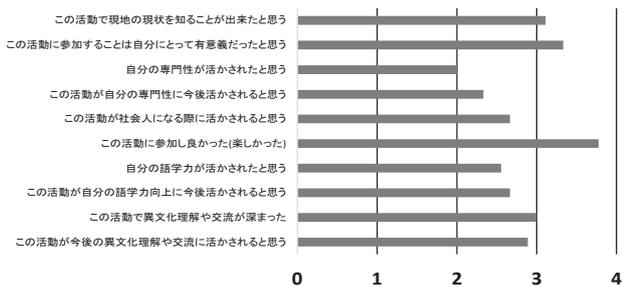
マーケットやスーパー等の見学・散策



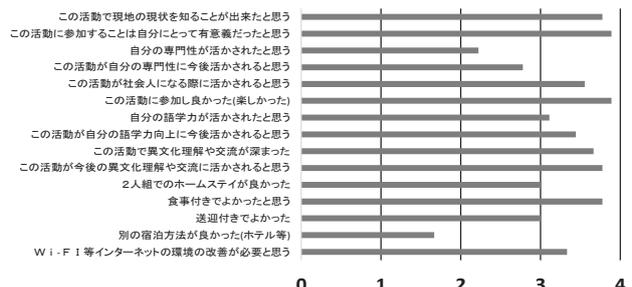
TAFE SA 3/4年後 英語入門のプログラム



アデレードでの自由行動



ホームステイ



Report on multicultural health and welfare training in Adelaide

RIKAKO INOUE*, MEGUMI KUBOTA*, JUNJI ABE**,
KAZUE NINOMIYA***, MEGUMI NAGOSHI***,
TOSHIYO TANIGUCHI****, KAORI HARANO****

**Department of Nutritional Science, Okayama Prefectural University (111 Kuboki, Soja, Okayama, Japan)*

***International Exchange Center, Okayama Prefectural University (111 Kuboki, Soja, Okayama, Japan)*

****Department of Nursing, Okayama Prefectural University (111 Kuboki, Soja, Okayama, Japan)*

*****Department of Welfare System and Health Science, Okayama Prefectural University (111 Kuboki, Soja, Okayama, Japan)*

Abstract In the present study, a total of 10 college students and 2 accompanying teachers stayed in Adelaide, South Australia, for approximately one week in order to participate in specialized and practical training. The students' goals in this training were to understand cultural differences and the importance of multicultural symbiosis, and to increase their motivation to learn about their field by studying English and observing facilities related to their field. This study aimed to obtain an insight into improving health and welfare training by clarifying the educational effects of training as international communication on these students. By participating in the training, these students realized that a language is one of the communication tools, understood differences in values and cultures, and deepened their understanding of their own field, which indicated an increase in their motivation to pursue their field. Thus, the goals of our training were generally achieved.

Keywords : health and welfare training, international communication, cross-cultural understanding, professional education, students